

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>『ノンプロフィット・レビュー』第20巻第2号(日本NPO学会)に「イギリスにおける地域再生と社会的企業の動向」、『Human Welfare』第13巻第1号(関西学院大学人間福祉学部研究会)に「若者就労支援と社会起業」を掲載した。また、共著『福祉社会デザイン論：日英の都市』(敬文堂)を出版した。</p> <p>学会発表では、日本ソーシャル・イノベーション学会第2回年次研究大会(於同志社大学、オンライン開催)において、「コロナ禍における社会起業—子ども・若者支援の事例から—」の報告を行った(11月1日)。そのほか、岩満賢次著『若年生活困窮者支援とガバナンス』(晃洋書房)の書評を『地域政策研究』(高崎経済大学地域政策学会)第23巻第1号、同じく山本隆著『貧困ガバナンス論』(晃洋書房)の書評を『日本地域政策研究』(日本地域政策学会)第25号に掲載した。</p> <p>② 教育活動</p> <p>令和2年度は、前年度に引き続き「社会起業論」(前期)、「NPO論」(後期)、「コミュニティビジネス論」(後期)の3つの講義を担当した。コロナ禍で例年通りの講義を行うことが難しかったが、「コミュニティビジネス論」ではオンラインを活用して実務家をゲストスピーカーとして招聘、具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。講演後に提出を求めたレスポンスシートの内容から、受講生がコミュニティビジネスによる地域活性化の実態を深く理解できたことを確認した。</p> <p>また「基礎演習」(後期)、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」の3つのゼミを担当した。基礎演習(2年ゼミ)では、社会的企業やソーシャル・イノベーションに関する基本文献の輪読を行った。「演習Ⅰ」(3年ゼミ)では、社会的企業研究の専門文献の輪読、グループ別での調査を行ってもらい、卒業論文の執筆に必要な知識や情報を学生が習得したことを確認した。「演習Ⅱ」(4年ゼミ)では、卒業論文の指導を行った。全員一定水準以上の論文を提出することができた。</p> <p>大学院では、博士前期課程の「社会起業特論」において、ソーシャル・イノベーションに関する英語文献の輪読を行った。受講生の英文読解力を高めることができたと考えられる。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、昨年度に引き続き入試担当学部長補佐として学部入試全般にわたる業務に携わった。</p> <p>社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問を引き続き務めた。学会活動では、日本政治法律学会および日本地域政策学会の理事を務め、日本地域政策学会では編集委員会副委員長として学会誌の発行に携わった。</p>	

2 その他の事項

特になし。

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 単著の出版に向けた研究を行う。
- ② 上記以外に継続して行っている研究成果をまとめ、発表する。
- ③ 卒業論文作成のために、演習Ⅰと演習Ⅱのそれぞれできめ細かい指導を行いたい。